

北関東防衛局広報



防衛省
MINISTRY OF
DEFENSE

防衛省北関東防衛局総務部報道官編集発行

さいたま市中央区新都心2-1

<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



鎌田局長離任挨拶



10月1日付けで北関東防衛局長を離任し、本省（大臣官房審議官）へ異動することになりました。在任中は管内の自治体の方々をはじめ多くの関係者の皆様にたいへんお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

これからも北関東防衛局は、防衛施設の所在する自治体の町づくり等に御協力させていただきますとともに、地方における防衛行政の新たな役割を果たすべく、私の後任の池部局長を中心として、一丸となって頑張っていきますので今後とも宜しく御願います。

池部局長着任挨拶



10月1日付けで北関東防衛局長に着任しました池部です。私は、これまで当局の次長の職に就いておりましたので、前局長の鎌田局長からいろいろとご指導を頂いておりました。そのため最近の北関東防衛局管内の状況等については、少なからず承知しているつもりですが、この度、局長という重責を担うことになり、改めて身の引き締まる思いがしております。

私は、防衛省の技官、建築職として入庁し、当初は防衛施設の建設の業務を担当し、図面を引いたり、建設現場で監督業務をしておりました。その後、基地問題を中心とする防衛施設行政にも携わるようになり、最近では防衛行政全般にわたり関わるようになりました。

防衛施設の建設では施設を使用する自衛隊や米軍といったユーザーのニーズを満たす施設を造ることになりますが、防衛施設行政では基地周辺の住民の方々のお要望や御意見を、防衛行政ではさらに広く国民の皆さんのお考えを拝聴しながら業務を進めていくこととなります。いずれの業務であっても、公僕としての、国家公務員としての自覚を忘れずに、与えられた役割を果たしていくことが大切なことだと思っております。

官製談合や防衛施設庁解体があった一方で、防衛省への昇格や地方防衛局の新設、更には、政権交代等々いろいろありますが、今は、時代が大きく変わろうとしている過渡期にあります。今、流行の「チェンジ」の真っ直中なのではないでしょうか。過渡期には過去との決別、未だ見ぬものへの恐れ等、色々大変なことがたくさんあると思いますが、これを「新たなステージへの挑戦」とポジティブに捉え、浅学非才の私ではありますが、北関東防衛局職員とともに業務に邁進していく所存であります。

平成21年版防衛白書の県知事への説明



村井長野県知事への説明



橋本茨城県知事への説明



上田埼玉県知事への説明



稲山群馬県副知事への説明

鎌田北関東防衛局長は、9月10日（木）から24日（木）にかけて、村井長野県知事、橋本茨城県知事、上田埼玉県知事及び稲山群馬県副知事を訪問し、「平成21年版日本の防衛（防衛白書）」を手渡し、概要説明を行いました。

北朝鮮のミサイル発射や核実験、宇宙や海洋における新たな取組、災害派遣における自衛隊の役割及び地方公共団体との連携の重要性などのほか、特に中国における軍事力の近代化、海洋における活動の活発化等について、防衛白書のほか持参したパネル写真等を用い、丁寧に説明を行いました。

各知事等とも、鎌田局長の説明に熱心に耳を傾け、中国の情勢や災害派遣における自衛隊の果たす役割の重要性などについてそれぞれ感想を述べられました。

森田千葉県知事の習志野駐屯地視察



森田知事と懇談する鎌田局長



PAC-3配備の様子を視察する森田知事



降下場の概況説明を受ける森田知事



自衛隊員と握手する森田知事



PAC-3の説明を受ける森田知事



PAC-3部隊の隊員

9月16日（水）、森田千葉県知事は北関東防衛局管内に所在する習志野駐屯地を視察されました。最初に、習志野駐屯地の沿革、任務等についての概要説明を受けられた後、第1空挺団等の資料が展示されている空挺館を見学されました。

また、当日は、陸上自衛隊第1空挺団の降下訓練を視察する予定でしたが、風が強く降下は中止になり、習志野演習場習武台から降下場の説明及び降下装備品の説明を受けられました。

その後、航空自衛隊第1高射隊のPAC-3配備訓練の様子を視察されました。最後に、森田知事は隊員に握手を求めるなど気さくな一面が覗かれました。

北関東防衛局の地震対処訓練



北関東防衛局では、9月1日の「防災の日」に指揮所演習型の防災訓練を実施しました。

当日、6時30分に震度6強の首都直下地震が発生したとの想定のもと、全職員の呼集（2駅手前からの徒歩出勤）、安否確認、災害対策本部の設置・運営の一連の訓練を行いました。

災害対策本部の運営訓練では、災害対策本部事務局へ参集した職員に対し、自衛隊の活動状況や自治体からの要望等さまざまな状況が設定され、事務局員はそれらの情報を対策本部長（局長）等へ報告しながら、関係機関役との連絡調整等の訓練を行いました。

訓練は正午までに順調に終わりましたが、多くの反省点が明らかになり、今後は反省点を検証しつつ、北関東防衛局としての災害発生時の態勢を万全なものにしていきたいと考えています。

第26回百里基地航空祭



F-15の野外展示場



家族連れで賑わうF-15の屋内展示場



ブルーインパルス



RF-4の野外展示場



E-2Cの野外展示場

茨城県小美玉市に所在する航空自衛隊百里基地では、毎年恒例の百里基地航空祭が開催され、今年で26回目を迎えました。この航空祭を行うに当たり、9月12日（土）には特別公開として、日頃からお世話になっている百里基地周辺の4市1町の住民の方々、国会議員、周辺自治体の長や議員等の関係者を招待し、翌13日（日）は、基地周辺の住民以外の方々もご覧になれる一般公開日としました。

この航空祭では、F-15・F-4戦闘機の飛行展示及びブルーインパルスによる曲技飛行等が披露されました。特にブルーインパルスによる曲技飛行の演技を見て、観客からは大きな歓声があがっていました。

その他の展示は、F-15、E-2C等の各種航空機の地上展示、各種装備品の展示、F-15・F-4改のコックピット公開、F-15・F-4改の作動部展示、観覧車の運行等が行われ、航空機ファンばかりでなく、子供連れの親子で会場は賑わっていました。

ニューサンノー米軍センターで南麻布富士見町会祭り



挨拶する清原町会長とカヴィル総支配人



祭りに参加した町会の子供達



御輿を担ぐ清原町会長と及川企画部長

9月13日（日）、東京都港区所在のニューサンノー米軍センターにおいて、地元南麻布富士見町会によるお祭りが開催され、当局から及川企画部長他が参加しました。

同町会の御輿がニューサンノー米軍センター玄関前広場に到着後、カヴィル総支配人による挨拶、記念撮影が行われ、町会の子供達から感謝の意を込めてカヴィル総支配人夫妻に花束が贈呈されました。

この後、屋内宴会場にて盛大な祝賀会が催され、南麻布富士見町の清原会長からカヴィル総支配人に対して謝辞が述べられました。また、屋外スペースにおいては、子供向けのゲームやホットドック、かき氷、ポップコーン、飴細工等の出店が並び、大いに賑わいを見せていました。

このお祭りは毎年9月にニューサンノー米軍センターにて実施され、米軍施設と地元町会住民との素晴らしい交流の場となっており、今後とも北関東防衛局は米軍と地域住民との交流が深まるよう支援をしていくこととしています。

福生市インターナショナルフェアへの横田基地からのボランティア参加



9月27日（日）、福生市商工会議所が主催する第21回インターナショナルフェアが開催されました。同フェア開催会場となった国道16号線横田基地前商店街周辺では、マーチングバンドのパレードや毎年恒例のビンゴ大会、ハンバーガーの早食い大会などが行われ、また福生駅東口会場では、クラシックカーの展示、模擬店、フラダンスやフラメンコ、ベリーダンスなど国際色豊かなイベントが催されました。

横田基地の米兵も良き隣人として福生市の商工会議所のイベントに参加するなど基地周辺住民との交流を大事にしています。



入間基地周辺障害防止対策（鷓ノ木排水路）事業



到達入孔



シールド機

排水路を造るにも防衛省の補助金は役立っているんだね。



仲川狭山市長

狭山市長からのコメント

狭山市は、埼玉県西南部、武蔵野台地の一端に位置し、雑木林や入間川の流れなど、豊かな自然とともに住宅工業都市として発展してまいりました。

その一方で、航空自衛隊最大級である入間基地が市の南西部と入間市に跨って位置しており、基地内の土地利用状況の変化等から、大雨時には基地内から流出した雨水により、下流側市街地において床上・床下浸水被害が度々発生しております。この防止対策として、防衛省から入間基地周辺障害防止対策（鷓ノ木排水路）事業の採択を受け、平成16年9月、入間基地から入間川までの約1.8kmの区間に、内径2,800mmの雨水幹線の整備に着手いたしました。

現在、事業の最終段階である基地内からの雨水を流入させる特殊人孔の築造に着手、平成22年度末の竣工に向けて工事を推進しております。この事業が完了すると、大雨時の浸水被害が防止でき、これまで以上に住民が安全で安心な生活を送っていただけるものと確信しております。

第30回防衛問題講話会～祖国と世界へ発信する防衛省職員であるために～



9月24日（木）、さいたま新都心合同庁舎2号館5階会議室において独立総合研究所（日本初の独立系シンクタンク）社長・兼・主席研究員の青山繁晴氏を講師にお招きして、「祖国と世界に発信する防衛省職員であるために」という演題で終了予定時間を1時間以上もオーバーするたいへん力のこもった講話をして頂き、北関東防衛局職員一同、深く感銘を受けました。

この講話では、最近の国際情勢として、日本の安全保障上の観点から朝鮮半島、中国を見た場合、我々はどういう対応をしていけばよいのか、そのためには防衛省職員として肝に銘ずべき心構えは何かを説いて下さいました。その講話の中で特に印象的であったのは、「日本が第二次世界大戦に敗れ、戦時中に祖国のために尊い命を犠牲にして散っていった人達のことを忘れずに生活してきたかどうか、その人達の犠牲の上に今日の日本の繁栄があったはずであるから、北関東防衛局の職員は、ひとり一人が防衛省の職員であることを自覚して、防衛省とはどういう組織で、どう社会に貢献しているかについて情報を発信できるようにしてもらいたい」ということでした。

今日、安全保障上、複雑な国際関係の中であって、いかに防衛省職員としてそれに対処していくべきか、そればかりではなく、防衛省の仕事をどうプレゼンテーションしていくかが非常に大切なことであることを自覚させられた講話会であり、日頃の業務に活かしていきたいと各職員とも決意を新たにしました。

サヘル・ローズさんへ義援金を贈呈



前列左より鎌田局長、サヘル・ローズさん、
後列左より中園調達部長、眞忠総務部長、
及川企画部長、原管理部長

9月14日（月）、北関東防衛局において、女優サヘル・ローズさんに対し、義援金の贈呈を行いました。

これは、7月3日（金）、当局において行われた、サヘル・ローズさん御自身の「イラン・イラク戦争の体験談」の講演の中で、彼女がイランの孤児院に少しずつ貯えたお金を寄付していることを聞いた当局職員の有志が、少しでも彼女のお手伝いができればと始めた募金を、鎌田局長より贈呈がなされたものです。

イランの戦災孤児のために義援金が活用されることをうれしく思います。

防衛閑話 (呉越同舟の計)

「組織の強さ」とか「精強性」とはどこから生まれるのでしょうか。この問いの答えを与えてくれる上で有益な示唆を与えてくれるものは、第二次ポエニ戦争のカルタゴの英雄ハンニバルが率いた軍隊の強さだと思います。ポエニ戦争とは、カルタゴとローマが地中海世界の覇権を争って三次に亘る戦争を戦ったものですが、このうち第二次ポエニ戦争ではカルタゴ側に名将ハンニバルが登場し、紀元前218年から紀元前201年までの17年間におよびイタリア本土を主たる主戦場として争われました。最後はローマの若き将軍スキピオに敗れ去ることになりますが、ハンニバルは、誰も予想していなかった前人未踏のアルプス越えを行い、敵地イタリアに攻め込み、ローマとの幾多の戦闘に勝ち続けました。一時は「ハンニバルに勝利するためには、ハンニバルと正面切って戦わないこと」だともローマの将軍に言わしめたほどでした。

他方で、このハンニバルの軍隊は金で雇われた傭兵を中心とする軍隊でした。それにもかかわらず、一度の謀反や反乱が無かったと伝えられています。「精強性」を維持できた一番の理由はもちろん、ハンニバルその人の「力量」だったのですが、その他にもハンニバルの軍隊が強かった理由があったように思います。

私は、敵の本拠地で厳しい戦いを行ったことこそが強さの秘訣だったと考えます。厳しいアルプス越えをようやく完了し、これからローマ軍と本格的に戦う前に、当時まだ29歳の若者であったハンニバルは、アルプス越えの途中で捕虜としたガリア人の群れを引き出させて、互いに決闘をさせ、それを部下全員に見せたと伝えられています。決闘に勝ち抜いたガリアの捕虜には自由を与えることにしましたので、ガリア人の捕虜は全員が決闘を望み、命がけの決闘が行われました。決闘が終わると、ハンニバルはガリア人同士の決闘を覗いていた部下達に向かって次のように言いました。「今観たのは見世物ではない。お前達の現状を映し出す鏡なのだ。敵地で戦うお前達には、ローマ軍との戦闘に勝つか、それとも敗れて死ぬかの道しか残されていない」。古代中国の戦略家である孫子の著書を読むと、「呉越同舟の計」ということが書かれています。「呉と越とは仇敵の間柄であるが、両国の人間が一つの船に乗り合わせ、暴風にあって船が危ないとなれば、左右の手のように助け合う。軍隊にこのような一致協力をもたらすには、敵地深く攻め込むことだ。敵地の中では兵士は逃げ場がなく、命がけで戦うよりほかない」と言うのが大まかな意味です。ハンニバルや孫子からの共通のメッセージは、人であれ、組織であれ、強くなりたいのであれば、自らを「絶体絶命の窮地に立たせる」ということのようにです。但し、実践はとても難しいと思います。